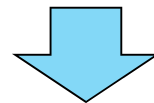


## 実験結果を受けて 市の考え

- 鋼矢板による止水壁、揚水井戸を適切に配置することにより地下水を低下させて、水位を維持できるが、地盤のばらつきによって水位の低下速度が異なることが判明。
- 地下水位、地盤沈下の予測計算方法が概ね妥当であることを確認。
- 約2か月の地下水位の低下で60mmの地盤沈下が発生。また、埋め立て地盤の不均一性による不均等な地盤沈下が発生。
- 実験用地の地盤における長期沈下解析ではやはり5年で18cmの地盤地下が発生すると予測。



地盤沈下リスクを考えると、  
地下水位低下工法の推奨は困難